

授業概要

学内の授業で修得した知識や技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を養う。

授業計画

(1) 実習期間

- 1 1月の2週間（小学校で教育実習Ⅰを実施する場合は教育実習Ⅱと合わせて4週間で実施）
※実習期間内の土日に行事等がある場合には、学校の日程に合わせて実習を実施する。

(2) 実習内容

観察実習・参加実習・本実習

到達目標

- (1) 既習の知識を基礎として、実践を通して小学校の目的や機能を理解できる。
- (2) 具体的な関わりを通して、児童における発達のプロセスや児童の心情を理解し、児童理解を深めることができる。
- (3) 小学校教諭の果たすべき役割について理解できる。
- (4) 小学校教諭としての実践的技術を高め、小学校教諭に求められる資質の向上を図ることができる。

履修上の注意

- (1) 教育実習を実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
 - ②教育実習指導（事前・事後）の授業に原則として全出席し、授業担当者の指示を遵守していること。
 - ③教育実習に必要な学内のガイダンスに出席し、すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
- (2) 実習中の欠席は特別の場合を除き認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要となる。

予習・復習

(1) 予習

- ①実習開始前にオリエンテーションを受け、実習校の概要理解に努める。
- ②教育実習指導（事前・事後）の授業を受け、準備学習をする。
- ③実習中は次の日の実習目標をたて、教材研究等に努める。

(2) 復習

実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

実習校の評価票を中心に総合的に行う。

テキスト

特になし

授業概要

実習校にて、習指導（観察実習、参加実習、本実習）、学級経営、学校行事、部活動、生徒（生活）指導を経験することによって、教員としての職務を理解できるようになり、自身の教員としての資質・能の向上を目指す。

授業計画

- (1) 実習期間…6月～10月（4年時秋期開講科目である教職実践演習の履修前に行う）。
（実習施設により日程が異なる。）
- (2) 実習時間…2週間（10日間）
- (3) 実習内容…学習指導（観察実習、参加実習、本実習）、学級経営、学校行事、部活動、生徒（生活）指導などを中心とする。
（具体的な実習内容は、実習校の指示に従う）

到達目標

- (1) 利用者や職員と生活を共にすることによって、利用者の背景や生活課題を理解することができる。
- (2) 人権の尊重、自立支援、利用者の自己決定、秘密保持等をふまえた、利用者のとのかかわりを理解することができる。
- (3) 利用者と積極的に関わるとともに、職員の行動・実践から積極的に学びとることができる。
- (4) 利用者の様子、自身の支援等を丁寧に記録し、適切な実習記録をまとめることができる。
- (5) 大学で学んだ知識や技術を実習の場で総合的に捉え直し、新たな学習課題の発見と学習意欲に結びつけていくことができる。

履修上の注意

- (1) 以下に掲げる科目を履修済みであること。
教育原理、教職概論、教育心理学、教職課程論、各教科教育法Ⅰ・Ⅱ、教職基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- (2) 「教育実習指導（事前・事後）」を履修していること。
- (3) 教育実習実施前年度に実施する教員・保育士養成課程委員会における教育実習派遣審査において、これまでの教科に関する科目を含めた履修状況が良好であり、派遣に支障がないと判断された者。

予習・復習

- (1) 予習
教育実習の意義・目的の理解。教育実習を行う上での心構えの指導、学校教育の現状と課題の理解、学習指導案の作成と模擬授業の実施。学習指導要領の内容の確認
- (2) 復習
教育実習報告会の実施、実習レポートの作成と提出。実習の個人評価

評価方法

教育実習校の評価を基準とし、「教員・保育士養成課程委員会」における「審議」を経て評価を確定する。審議の際には、「教育実習記録」の内容の評価、研究授業に参加した教員からの意見等を踏まえて、総合的に評価を行う

テキスト

「教育実習の手引」「教育実習記録」（いずれも授業時に配布する）。